

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月5日
【四半期会計期間】	第96期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	株式会社河合楽器製作所
【英訳名】	KAWAI MUSICAL INSTRUMENTS MANUFACTURING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 河合 弘隆
【本店の所在の場所】	静岡県浜松市中区寺島町200番地
【電話番号】	053-457-1242
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 執行役員 河合 健太郎
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川四丁目10番27号 住友不動産品川ビル 株式会社河合楽器製作所 東京オフィス
【電話番号】	03-6718-4241
【事務連絡者氏名】	総務人事部 国内総括課（東日本担当）課長 中尾 諭
【縦覧に供する場所】	株式会社河合楽器製作所 東京オフィス （東京都品川区東品川四丁目10番27号 住友不動産品川ビル） 株式会社河合楽器製作所 名古屋オフィス （名古屋市中区丸の内三丁目5番33号 名古屋有楽ビル） 株式会社河合楽器製作所 大阪オフィス （大阪府中央区備後町三丁目3番9号 備後町コイズミビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第1四半期 連結累計期間	第96期 第1四半期 連結累計期間	第95期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	20,547	20,766	85,703
経常利益 (百万円)	1,820	1,567	7,304
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,199	919	5,046
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,795	2,120	6,145
純資産額 (百万円)	29,209	35,035	33,559
総資産額 (百万円)	63,498	69,172	68,391
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	139.51	106.95	587.17
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.79	50.38	48.81

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の進展、医療提供体制の整備、治療薬の確保などの対策がとられる中で感染の一時的な拡大はありながらも、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの経済活動抑制策の適用は回避されております。

個人消費は、ウクライナ情勢悪化による資源価格高騰や日米金利差拡大を受けた円安によって物価が上昇しており、消費者マインドの悪化、実質購買力の低下が懸念されるものの、新型コロナウイルス感染症に対しての行動制限緩和に伴い、外食・宿泊・娯楽などの対面型サービスを中心に持ち直しの動きがみられます。

また世界経済は、米国や欧州において経済活動再開の動きは見られますが、資源価格高騰、ウクライナ危機の長期化、中国のゼロコロナ政策による主要都市のロックダウンの影響などにより、先行きは不透明となっています。

このような経営環境のもと、当社グループは第7次中期経営計画「Resonate 2024」（2023年3月期から2025年3月期）を策定し、2027年に迎える『創立100周年』とさらにその先の継続的な発展に向け、KAWAIブランドの更なる社会的浸透と、持続的かつ堅実な成長を実現するために日々邁進しております。

こうした中で、6月に宮城県仙台市で開催された『第8回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門』において、予選からファイナルまで一貫して当社Shigeru Kawaiフルコンサートピアノ『SK-EX』を使用したルウォ・ジャチン氏（中国）が優勝、またファイナリスト6名全員が『SK-EX』を使用するという当社として喜ばしいトピックがありました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は20,766百万円（前年同四半期比1.1%増）、為替影響や海上輸送費、材料費の高騰などにより営業利益につきましては1,147百万円（前年同四半期比31.1%減）となり、経常利益は1,567百万円（前年同四半期比13.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は919百万円（前年同四半期比23.3%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、株式会社カワイキャスティングにつきまして、事業統括組織の変更に伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の素材加工事業から楽器教育事業に変更いたしました。そのため、前年同四半期比較については、前第1四半期連結累計期間の数値を当該変更後の数値で比較しております。

（楽器教育事業）

楽器教育事業は、『Shigeru Kawai』をはじめとする鍵盤楽器の販売において前期に引き続き世界各地で好調に推移いたしました。また音楽教室や体育教室においては、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努める中、春の生徒募集やイベント開催などに取り組みました。これらの結果、売上高は17,485百万円（前年同四半期比5.7%増）となり、為替影響や海上輸送費、材料費の高騰などにより営業利益は791百万円（前年同四半期比37.1%減）となりました。

（素材加工事業）

素材加工事業は、供給先の生産調整により半導体関連部品や自動車関連部品の受注が減少したことなどもあり、売上高は2,625百万円（前年同四半期比1.7%減）となり、営業利益は361百万円（前年同四半期比15.1%減）となりました。

（その他）

その他の事業は、医療機関向けIT機器販売の受注減少などにより、売上高は655百万円（前年同四半期比50.7%減）となり、営業損失は2百万円（前年同四半期 営業損失6百万円）となりました。

また、財政状態の状況は次のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、棚卸資産の増加などにより69,172百万円（前連結会計年度末比1.1%増）となりました。

負債合計は、未払法人税等の減少などにより34,137百万円（前連結会計年度末比2.0%減）となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益などにより35,035百万円（前連結会計年度末比4.4%増）となりました。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第1四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、124百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	34,200,000
計	34,200,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,011,560	9,011,560	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	9,011,560	9,011,560	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	9,011	-	7,122	-	1,257

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 416,700	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,579,100	85,791	-
単元未満株式	普通株式 15,760	-	一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	9,011,560	-	-
総株主の議決権	-	85,791	-

- (注) 1. 「完全議決権株式（自己株式等）」欄は、全て当社保有のものであり、同じく「単元未満株式」欄に14株当社保有株式が含まれております。
2. 「完全議決権株式（その他）」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が600株含まれておりますが、全て名義書換失念株式であります。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） 株式会社河合楽器製作所	静岡県浜松市中区寺島町 200番地	416,700	-	416,700	4.62
計	-	416,700	-	416,700	4.62

(注) 当第1四半期会計期間末現在の自己株式数は416,714株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,659	23,128
受取手形及び売掛金	9,485	7,846
商品及び製品	6,483	7,215
仕掛品	1,738	1,868
原材料及び貯蔵品	4,157	4,855
その他	2,068	2,507
貸倒引当金	157	162
流動資産合計	46,436	47,258
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,107	4,092
機械装置及び運搬具(純額)	1,779	1,745
土地	6,354	6,369
その他(純額)	1,090	1,067
有形固定資産合計	13,331	13,275
無形固定資産	636	599
投資その他の資産		
投資有価証券	5,313	5,529
繰延税金資産	1,235	1,087
その他	1,589	1,583
貸倒引当金	152	161
投資その他の資産合計	7,986	8,039
固定資産合計	21,955	21,914
資産合計	68,391	69,172
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,717	5,823
短期借入金	5,895	5,700
未払法人税等	1,770	882
賞与引当金	968	375
製品保証引当金	171	173
その他	6,050	6,917
流動負債合計	20,572	19,873
固定負債		
長期借入金	4,396	4,225
環境対策引当金	5	3
退職給付に係る負債	8,829	8,989
資産除去債務	594	595
その他	432	450
固定負債合計	14,259	14,264
負債合計	34,831	34,137

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,122	7,122
資本剰余金	1,257	1,257
利益剰余金	24,895	25,170
自己株式	964	964
株主資本合計	32,311	32,586
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	361	539
為替換算調整勘定	876	1,890
退職給付に係る調整累計額	165	170
その他の包括利益累計額合計	1,072	2,259
非支配株主持分	174	189
純資産合計	33,559	35,035
負債純資産合計	68,391	69,172

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	20,547	20,766
売上原価	14,935	15,282
売上総利益	5,611	5,484
販売費及び一般管理費	3,946	4,336
営業利益	1,665	1,147
営業外収益		
受取利息	12	19
受取配当金	37	44
固定資産賃貸料	10	11
為替差益	102	374
その他	35	11
営業外収益合計	199	462
営業外費用		
支払利息	20	20
寄付金	12	10
その他	11	11
営業外費用合計	43	42
経常利益	1,820	1,567
特別利益		
固定資産売却益	0	0
受取補償金	25	-
特別利益合計	25	0
特別損失		
固定資産除却損	6	19
特別損失合計	6	19
税金等調整前四半期純利益	1,839	1,547
法人税等	629	625
四半期純利益	1,209	922
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,199	919

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,209	922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	198	177
為替換算調整勘定	789	1,031
退職給付に係る調整額	0	4
持分法適用会社に対する持分相当額	4	6
その他の包括利益合計	586	1,198
四半期包括利益	1,795	2,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,777	2,105
非支配株主に係る四半期包括利益	17	14

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合は、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
受取手形割引高	41百万円	47百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
減価償却費	361百万円	377百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	472	55	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	644	75	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	楽器教育	素材加工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,544	2,671	19,216	1,330	20,547	-	20,547
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	0	0	99	99	99	-
計	16,545	2,672	19,217	1,429	20,647	99	20,547
セグメント利益 又は損失()	1,258	425	1,684	6	1,677	11	1,665

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 11百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	楽器教育	素材加工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,485	2,625	20,110	655	20,766	-	20,766
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	2	3	28	32	32	-
計	17,486	2,627	20,114	684	20,798	32	20,766
セグメント利益 又は損失()	791	361	1,153	2	1,150	3	1,147

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 3百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 17百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、株式会社カワイキャスティングにつきまして、事業統括組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の素材加工事業から楽器教育事業に変更いたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、これらの変更を反映し作成したものを開示しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	楽器教育	素材加工	計		
日本	7,870	2,671	10,542	1,330	11,873
中国	3,492	-	3,492	-	3,492
北米	1,750	-	1,750	-	1,750
欧州	2,399	-	2,399	-	2,399
その他	1,031	-	1,031	-	1,031
顧客との契約から生じる収益	16,544	2,671	19,216	1,330	20,547
外部顧客への売上高	16,544	2,671	19,216	1,330	20,547

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	楽器教育	素材加工	計		
日本	7,732	2,625	10,357	655	11,013
中国	3,355	-	3,355	-	3,355
北米	2,641	-	2,641	-	2,641
欧州	2,706	-	2,706	-	2,706
その他	1,049	-	1,049	-	1,049
顧客との契約から生じる収益	17,485	2,625	20,110	655	20,766
外部顧客への売上高	17,485	2,625	20,110	655	20,766

(注)1.「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2.当第1四半期連結会計期間より、株式会社カワイキャスティングにつきまして、事業統括組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の素材加工事業から楽器教育事業に変更いたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、これらの変更を反映し作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり四半期純利益	139円51銭	106円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,199	919
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	1,199	919
普通株式の期中平均株式数 (千株)	8,594	8,594

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(株式報酬制度の導入に伴う第三者割当による自己株式の処分)

当社は、2022年6月28日開催の第95期定時株主総会において、当社取締役(社外取締役を除く。以下同じ。)を対象に、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、信託を用いた株式報酬制度(以下「本制度」といい、本制度導入のために設定される信託を「本信託」といいます。)を導入する旨を決議しておりますが、2022年8月4日開催の取締役会において、本信託の受託者が行う当社株式取得(以下「本自己株式処分」といいます。)を行うことについて決議いたしました。

1. 本信託の概要

名称：役員向け株式交付信託

委託者：当社

受託者：三井住友信託銀行株式会社

(再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行)

受益者：取締役のうち受益者要件を満たす者

信託管理人：当社及び当社役員から独立した第三者を選定する予定

議決権行使：信託の期間を通じて、本信託内の株式に係る議決権は行使いたしません

信託の種類：金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)

信託契約日：2022年8月30日

金銭を信託する日：2022年8月30日

信託終了日：2027年8月末日(予定)

2. 本信託の受託者による当社株式取得に関する事項

取得する株式の種類：普通株式

株式の取得資金として当社が信託する金額：129,285,000円

取得する株式の総数：45,000株

株式の取得方法：自己株式の処分による取得

株式の取得時期：2022年8月30日

3. 第三者割当による自己株式の処分

(1) 処分の概要

処分期日：2022年8月30日

処分する株式の種類及び数：当社普通株式45,000株

処分価額：1株につき2,873円

処分総額：129,285,000円

処分予定先：三井住友信託銀行株式会社(信託口)

(再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行(信託口))

その他：本自己株式処分については、有価証券届出書の効力発生を条件といたします

(2) 処分の目的及び理由

当社は、2022年6月28日開催の第95期定時株主総会において本制度の導入を決議しておりますが、本自己株式処分は、本制度導入のために設定される本信託の受託者である三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行(信託口))に対し、第三者割当により自己株式を処分するものであります。

(連結子会社間の合併)

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

	結合企業 (吸収合併存続会社)	被結合企業 (吸収合併消滅会社)
名称	河合貿易(上海)有限公司	河合楽器(中国)有限公司
事業内容	鍵盤楽器の卸販売等	鍵盤楽器の卸販売、音楽教室事業、調律事業等

(2) 企業結合日

2022年12月1日(合併予定日)

(3) 企業結合の法的形式

河合貿易(上海)有限公司を存続会社、河合楽器(中国)有限公司を消滅会社とする吸収合併方式といたします。

(4) 結合後企業の名称

カワイ楽器(中国)有限公司(仮称)

2022年12月1日を効力発生日として、河合貿易(上海)有限公司の商号を変更する予定であります。

(5) 取引の目的を含む取引の概要

当社は、2022年8月4日開催の取締役会において、当社の連結子会社である河合貿易(上海)有限公司と河合楽器(中国)有限公司の2社の、河合貿易(上海)有限公司を存続会社とする吸収合併を行うことを決議いたしました。

当社グループが中国市場で推進する楽器教育事業において、鍵盤楽器の卸販売等を行っている河合貿易(上海)有限公司と、中国市場の統括会社であり鍵盤楽器の卸販売、音楽教室事業及び調律事業等を行っている河合楽器(中国)有限公司を統合し、当社が推進する三位一体(販売、教育、調律)活動を中国市場においても展開することで、更なる事業規模の拡大を図るとともに、当社グループの組織運営の合理化や資金効率の向上を図ることが本合併の目的であります。

(合併の日程)

合併承認取締役会(当社) 2022年8月4日
合併契約締結(当事会社) 2022年8月8日(予定)
合併期日(効力発生日) 2022年12月1日(予定)

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理を行う予定であります。

3. その他

被結合企業として消滅する河合楽器(中国)有限公司は特定子会社に該当しております。また、存続会社として結合企業となる河合貿易(上海)有限公司は新たに特定子会社に該当することとなる予定です。

2【その他】

訴訟事件等

当社は、音楽教室訴訟原告団の一員として、音楽教室における著作物使用にかかわる請求権不存在確認訴訟において係争中であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月5日

株式会社 河合楽器製作所
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人
東京オフィス

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 逸見 宗義

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 博生

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社河合楽器製作所の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社河合楽器製作所及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1．上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。